

福井連協たより

2017年7月1日：発行
ＪＰ労組福井連協退職者の会
＜福井連協幹事会＞

ＪＰ労組福井連協退職者の会「第3回定期総会」 ＜2017年8月20日（日）10：00～ 於：「アオッサ」＞ 2017年度活動計画（案）



1. はじめに

2016年8月20日にＪＰ労組退職者の会福井連協の第2回総会を開催し、設立から3年あまりが経過しました。この一年間、①組織基盤の確立を目指して親睦と交流を基本に取り組んできました。②活動の原点は身近な支部にあるので支部レクリエーションに対して助成金を交付して支部レクを促してきました。③幹事会の充実をはかりながら会員拡大に取り組みました。④慶弔関係では喜寿・米寿のお祝い金を最寄りの支部役員から手渡しをして仲間意識を高めることができました。

その一方で会員の死亡や脱会もあり会員の純増に結びついていないことも反省と言えます。今年度は中間総会なので活動方針は第2回の活動を踏襲した活動方針とし、前年度の反省点を補強して、会員が楽しいと思える退職者の会を作り、その輪が広く深く根付くような行動を展開します。そして、ＪＰ退職者の後輩に速やかにバトンタッチできるよう取り組んでまいります。

2. 具体的な行動展開

（1）親睦と交流について

ア 会員相互の親睦と交流を基本として、連協レクはもとより支部にも開催を促し、より親睦と交流が深まるよう努めます。

イ 連協は前年に引き続き『おもてなイベント』を支部との協賛で開催します。今年度は福井支部の番で2018年4月18日に朝倉遺跡散策と名物ランチが当該支部から明らかになりました。再来年は東部支部を予定しています。内容等については支部と打ち合わせしながら進めてまいります。今後、北陸会報や連協幹事会、支部幹事会を通じて周知して参加者を募ります。当該支部には助成金を交付します。

ウ その他の支部も独自の楽しいイベント等を企画して、会員間の親睦と交流に努めることを促します。助成金は前年同様の交付をします。

エ 連協イベント、支部イベントは現役にも声をかけて、現退の意思疎通向上に努めます。

(2) 会員拡大の取り組み

設立当初から会員の高齢化が懸念されてきました。会員の死亡も少なくなく会員の拡大を継続的していけないとギリ貧で現役 JP に引き継ぐことができなくなる恐れがあります。さらに、米寿とともに会費免除されることから財政的にも厳しくなります。

会員拡大を郵便による勧誘で行いましたが成果はありませんでした。前年度は連協幹事一人が 1 名拡大する目標に取り組み、9 人の拡大がありました。前年度とおり純増を望むことができませんでした。一人ひとりの声かけや呼びかけが一番有効な方策なので幹事会で協議しながら純増を目指します。

ア 幹事会で協議したうえで各支部に拡大目標数を設定します。

イ 拡大交付金を自払い申込書が連協に届いた段階で引き続き交付します。

ウ JP 労組退職者に対して現役支部役員からも退職者の会に加入する声かけを要請します。

(3) 政治活動の取り組み

政治活動は JP 労組と同じ視点で今後も関心をもちながら取り組んでまいります。とりわけ年金、医療、介護等の社会保障の充実は私たちの権利主張だけではなく、現役組合員の道標でもあると考えています。そのような観点から現役と歩調を合わせていきます。

(4) 平和活動の取り組み

平和を望まない方は一人もいません。現役 JP 労組や退職者連合と歩調を合せながら署名や要請行動等に取り組んでいきます。

(5) 福井県退職者連合との連携

福井県退職者連合は 10 月の総会、旅行（5 月下旬）、研修会（9 月初旬）、マレットゴルフ大会（9 月中旬）等のイベントが実施されます。他産別退職者の会では親睦旅行に相乗りして大勢の参加者を出しています。連協幹事会を通じて周知する等積極的な参加を促して連携をはかってまいります。

(6) 各種共済の取り組み

JP 共済生協、(株)郵愛の各種共済商品は相互扶助の精神から成り立っています。幹事会等を通じて退職者でも加入できる商品の説明会を実施します。連協幹事会を通じて継続するよう呼び掛けていきます。

(7) 北陸会報で情報提供

前年度から《会報ふくい》を廃版して『JP 労組北陸退職者の会会報』で各支部・連協の行事等を掲載して不都合もなく 1 年が経過しました。連協はもとより支部の情報を積極的に提供して共有化をはかります。

(8) 慶弔等に手渡し継続

前年度から喜寿・米寿のお祝い金は最寄りの支部役員が手渡しでお届けすることに大変喜ばれています。今後も引き続き手渡しを実施します。該当支部には予め情報提供をするとともに慶弔金を支部口座に振り込みます。